
幼馴染に振り回されて～中崎 樹の場合～ まだ中学生だった頃・・・。

雷

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼馴染に振り回されて（中崎 樹の場合） まだ中学生だった頃・

・。

【Zコード】

Z8700Z

【作者名】

雷

【あらすじ】

奈美と樹は幼馴染であった。ある日樹の両親が交通事故でなくなつてから奈美は決心したことがあつた。それはこれから先絶対に樹を悲しませない。悲しませてもその分笑わせてやればいい。悲しみを半分こにしようと・・・そしてそらから8年後2人は誰にもばれてはいけない同棲することになる。そして二人の気持ちに変化が・・・。

幼馴染に振り回されて &振り回されての中崎樹と結城奈美の2人が
中学生だった頃のお話です。

非日常へと変化現る・・・

（8年前）

樹「パパ、ママ何処行っちゃったの・・・。帰つて来てよ・・・。行かないでよ僕を置いていかないで・・・。パパ、ママ帰つて来て・・・。」

奈「樹悲しいのは分かるけどね樹のパパとねママは死んじやったの！？」

樹「そんなことないみ・・・。だつてパパとママは帰つて来てくれるつておじちゃんたちほ言つたもん！・・・。」

奈「生きてる人があんなにつめたくてあんなにあんなに・・・。」

樹「ママとパパは生きてるもん・・・。だから僕は待つんだ待つんだ・・・。」

奈「いい！！！！！樹のパパとママは死んじやったの！・・・！天国に言つちやったの！・・・！グスンうわああああああん！」

樹「グスッビうして奈美ちゃんまで泣くの・・・。？」

奈「悲しい・・・から泣いてるの・・・。」

樹「どうして？樹のつパパとママなのに？」

奈「それはつ自分のつママとパパが死んだ位悲しいから・・・。だから樹のばばだからとか関係ないんだよ。樹が悲しいなら私も悲しい樹が楽しいなら私も楽しい・・・。だから悲しみもつらさも半分にこにしみ？それが樹のパパとママのためにもなるから・・・。」

樹「奈美ちゃんありがとね・・・。奈美ちゃんのおかげで元気が出たよ・・・。」

奈「良かつた・・・。」

（8年後）

ブルルル ブルルル

樹「もしもし中崎です」

奈「いつちゃん・・・。あんね助けて」

樹「えつどうしたさー!？」

奈「今ねいつちゃんの家の近くまで来てるの今から行つてもいい?」

樹「いいよ。奈美を今から迎えに行くさー!ー!ー!ー!」

奈「いいよそこまで一人で行くから・・・。じゃあね。」

樹「まつ・・・・・プウプウ」

奈美ちゃん何て泣きそうな声してたんだりさ・・・。
なんかあつたのかな・・・。

このときの樹はこれから先のことを考えていなかつた・・・。続く
! ! !

俺らの災難

ピーンポーン
樹「はあい」
奈「入つていい？」
樹「入つていいよ」
奈「ごめんね夜遅く」・・・
・・・確かに夜遅くさな・・・
樹「別いいさ。早く上がるわ」
奈「うんありがと・・・」
樹「適当に座つてコーヒー入れるからわ」
奈「いいよ気にしないで」
樹「ええっせつかく新しいの買つてきたのこさ・・・」
奈「そつか。じゃあお願ひしようつかな」
ううん奈美どうしたんさかなあ？
こんな夜遅くにあんな量の荷物持つて・・・
樹「はいできたよ。ミルクと砂糖は自分で入れて」
奈「うん。それよりさ樹は聞きたくないわけ？」
樹「何をさ？」
奈「その・・・たくさんの荷物持つて夜遅くやつてられたこと」
わなくていいわ。」
奈「そつか・・・優しいんだね。」
樹「優しくないよーーー」
奈「でもいつちゃんには言ひとくいうかな理由を・・・」
樹「何があつたんさ？」
奈「1時間前ね・・・」

（～1時間前～）

奈「お父さん私これからいつちゃんと住むから……」

父「なつ いつちゃんって誰だ！？」

奈「いつちゃん忘れたの！？中崎樹くんだよ……」

父「だめだ。お父さんは許さないぞ！……そんな健全な女子中学生

とけがわらし男と一緒にすませるなんて……」

奈「いつちゃんはけがわらしくない……いつちゃんは私の大

切な人なの！……分かってよ！……その辺の男と一緒にしないで

！……お父さんの方がよっぽどけがわらしいんだから……」

とお母さんの許可は得てるからじゃあね！……」

父「お父さんかけがわらしにだつて！？」

奈「ええ そう言つたのよ……聞こえなかつたこの獣が！……」

父「よお 言つたな！……もうお父さんは知らないからいつちや

んのもじだか誰の元だか勝手にせえや……」

奈「好きにさせてもらひわじやあね！……もつ一生食こたくな

い……」

つてなつたの……お父さん酷くない？」

ええと奈美さん……それはさすがに君が悪いよ……

樹「待つさ！？何で俺と住むこと決定されてるんか！？」

奈「えつもしかして小さこじるの約束忘れたの！？」

樹「えつ楽しさも悲しみも半分こにしよつてやつ？」

奈「その後……10年たつたら一緒にすもうつて言つたじちゃん

！……早いけどいいかなつて思つて……」

樹「いや言つてないわ……」

奈「言つたよね？」

涙目です

樹「うう／＼言つたさ／＼」

奈「だからその約束果たすためにきました！……」

樹「まじで！……？……？……とつあえず家に電話するわ。」

奈「それはダメ」

樹「何でさ？」

奈「オトウサンガキレテルカラ。イッチャンロロサレタワタシイ
キテイケナイ。」

樹「読みにくさー？じゃなかつた。聞きにくさー……」

奈「でもでもこいつちやんこいわれけやつよ？ここのが？」

樹「それは嫌だけれ……。許可はとつと！」

奈「うん分かつた……。」

樹「じゃあ電話するわ。」

奈「うん」

プルルル プルルル プルルル
「はいもしもし結城です」

奈「お母さん？」

母「どうしたの！？なつちゃん？」

奈「あのねお父さんにかわつてくれない？」

母「いいけど……。覚悟はできる？」

奈「うん」

母「じゃ分かつた。おとつせん……」

父「何よ……？」

母「奈美から電話！……！」

父「奈美だいやそれは！？」

母「私たちの娘よ！……！」

父「そんな奴知らん！……！」

母「ああつー？何が知らんや……あんたの「じじもじょー……」

父「わつわいひちここや……！」

父「しようがねえなあ。はい換かわりましたあ

奈「お父さん。」

父「何よ!?」

奈「今ねいつちやんの家についた。これからいつちやんと暮らすからいい?」

父「ダメや!……わざ帰つて!」

奈「何でダメなの!?」

父「ダメなもんはダメや!……そのこいつちやんとやらとかわれ!……!」

奈「分かつた今変わるね……。」

樹「もしもし。」

父「お前が中崎樹か!……!」

樹「はいそうですけど?」

父「俺らの奈美に何せらしとんじやあ!……ああん?」

樹「……。」

父「何か言つたらどうじやあい!?」

樹「奈美ちょっとあつちの部屋に行つて」

奈「いいけど……。」

父「うちの娘を下の名前で呼ぶなや!……!……!」

樹「何故下の名前で呼んだらダメなんですか!?」

父「俺の娘だからだ!……!」

樹「あんたの娘だからですか!?じゃああなたも奈美のことは舌の名前で呼ばないでください?」

父「何でや!?」

樹「俺の大事な親友で幼馴染で大事な人だからです!……!」

父「よひ言つたなあ!……!今からそこいくから待つとけ!……!」

プツツ「

・・・・・

言つちやつたよ……。俺……。

奈「どうだつた?」

樹「今から来るつて……。」

奈「えつどうしよう…。」

樹「大丈夫。俺がなんとかするよ。」

樹と奈美の戦いは第2ラウンドへとつにゅうした続く！！！
樹「いや続かせないで！！！死にたくないもん！！！」

俺らの戦い

ふう・・・。
緊張する・・・。

奈美のお母さんにはよく会ひながらお父さんはあつたことがないから
な。

樹「奈美大丈夫？」

奈「うん・・・。わたしが帰ればこっちちゃんに迷惑かけないですむ
んだよね・・・。」

樹「迷惑とか言つなよ・・・。奈美が傷ついてんなら俺も傷つくな
・・・。俺らはそういう仲だろ？俺はいつまでたつても奈美的味方さ
だから奈美がいっしょに暮らしたいって考えたらおれもいっしょに
暮らしたいって考える・・・。」

奈「ありがといっちゃん・・・。」

ピンポンピンポンピンポン！――――――！

奈「来たね・・・。私が出てくるね・・・。」

樹「俺も行く。」

奈「うん・・・。わかつた。」

ガチャ――！

樹「どうぞあがつて下さこ」

父「あがらんでええわ！――奈美連れて帰るからな――――」

奈「待つ・・・」

樹「待つて下せ――奈美は俺とすみます。」

父「何言つとんのやあ――――！」

樹「ですから奈美は俺と住みます。ねつ奈美？」

奈「うん。お父さん分かつたら帰つて――――！」

父「ふざけんなやあ――――！」

バチッ――！

「ああ、

奈「いっちゃん大丈夫！？？」

樹
一
だ
・
・
・
大
丈
夫

奈 - せよ - とお父さん!!!! い - なせん!! 何すんの!!

卷之三

奈「ちよりお父さん……手離してよ……嫌だ帰らない帰らな

い・か・く

父・也ハ、深羅上縫れにキ!!!!!!

לעון נס

木の上に立つてゐる

卷之三

卷之三

父「アリナリ」

奈「もう一人ともお願ひだからやめて……」つちゃん、つちゃん

ん
！
！
！
！

奈美が・・・泣いてる・・・

俺のせい？

の皿の前にいる」いつのせい?

奈々子、何と云つたの？ い、ちやん！ ？」

父の口ほどもなしに力がキヤな

モード俺の意

そこで俺の意識はなくなつた……。
氣付いたう病院のベッドの上で横になつた奈美が座つながらの腰でいた。

。

樹「奈美……ごめんな……。守ってやれなくて……。気付いてあげられなくて……。」

奈「ううん……。いつちゃん? いつちゃん……。」

樹「痛い痛いさ……! そんな抱きつくな……!」

奈「良かつた良かつた良かつた良かつた……。」

樹「わかつたから泣くな。なつ?」

奈「うん。」

樹「それよりあの後どうなったの?」

奈「お父さんも反省して謝罪の代わりに一緒に住んでやれって言ってた……。」

樹「そつか……。もう夜だから奈美は家に帰りな。」

奈「家つて……。どこに……。」

樹「そんなの決まってるだろ”俺らの家”だ……。」

奈「わたしたちの?」

樹「そう帰つたら笑顔で迎えてくれよ……。」

奈「うん分かった!!!! んじやあ明日には帰つて来てね」

樹「うん……。また明日」

奈「明日ね」

樹と奈美の戦いは幕を閉じた。

ようと思えたが戦いは幕を開き始めたばかりだった。

その話はまた後ほど……。

俺らの戦い（後書き）

はい奈美と樹の波乱の戦い？はこれにて終了です。

これから奈美と樹はどうなるのか・・・。

これからも幼馴染に振り回されてをよろしくお願いします。

自己紹介

中崎 樹
なかさき いつき

この話の主人公。

3話目から幼馴染の奈美と同棲している。

好きな子は結城奈美である。

でも告白はまだしていない・・・。

本人曰くまだしたくないのことだ。

両親は幼いころに他界していて今は伯父の資金により一人暮らしをしている・・・。

龍と同じくらいモテている。

1年3組に在籍しており出席番号は14番。

誕生日は2月9日。

語尾にさがつくのが特徴であるwww

結城 奈美
ゆうき なみ

主人公の親友?であり幼馴染である。

3話目から樹と同棲している。

実は樹のことが好きであり樹の好きな人を詮索中・・・。

里奈とは席が近いためかすぐ仲良くなつた・・・。

この話のヒロインである・・・。

両親とは一緒に暮らしていたがケンカして樹の家に逃げた・・・。

いつコンのため他の男子には目がいかないのが盲点である・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は56番

誕生日は7月15日

中崎 龍
なかさき りゅう

この話の主人公樹の親友であり幼馴染。

10年前結城里奈とある約束をしている。

趣味は運動をすること両親とは入学式のあとから別居している。

両親は健在、女子に以外にモテている・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は15番。

誕生日は4月10日入学式の一日前である・・・。

結城 里奈
ゆうき りな

この話のヒロインの友達。

10年前の約束をはたすため中崎龍のもとへと帰ってきた・・・。

両親とはケンカ中しかし毎月大量のお金が送られてくる・・・。

龍のため他の男子にはめがいかないところが盲点である・・・。

1年3組に在籍しており出席番号は57番

誕生日は12月7日

退院

やつたあ 今日退院だあ……
つて1日しかいなかつたけどわ……。
でも名残惜しいなあ。

樹「お世話になりましたわ。」

受付の人「お大事に」

はあ今から晩飯買ひ行つて家に帰らないとひれ……。
ふるるる ふるるる ふるるる

樹「もしもし」

奈「あついつわやん……」

樹「そうだけじか。びりじたのを奈美?..」

奈「あんね ×ストアに来て……」

?

樹「うん分かったさ……。」

奈「んじゅあそれだけバイバイ

樹「んじゅあね。」

うう んじうしたんだるうた?

あつそいいえば今日から一緒に住むわ……
ああなんかきんちょうしてきましたわ……

多分今顔赤いさね!……

ううん早く会いたいし走ろうわ……

～5分後～

×すとあにやつと着いたわ……!

はあ緊張してきたさ……。

あつ奈美……。

あれ?

何で男とこるんさ……。

奈美は俺のこと好きじゃなかつたのさ？

俺は奈美が好きなのにさ・・・。

ナミハアソビダツタノ？
ナンデコンナニムネガイタイノサ

俺の中で何かが音を立てて崩れた。

そこから気付いたら奈美のいることは逆方向のところに走つてた・・・。

ツナミハオレノコトアソビダトオモ
オレガヒトリデハシヤイデタダケ
ヒトリヨガリダツタノ力
ああそだつたのか・・・。
アレナニコノホホニナガレルアツ

オイエキタイテルノ
オレナイテルノ
泣かないつてきめたのにさ・・・。
父さん母さん俺どうすればいいんさ？
なあ奈美俺どうすればいいんさ？

退院（後書き）

はいいいところで終わりです。
ここから先も2人は離れてしまいます・・・。
2人の戦いはまだまだ始まつたばかりです。
なので2人が幸せになれるように応援よろしくです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8700z/>

幼馴染に振り回されて～中崎 樹の場合～ まだ中学生だった頃・・・。

2012年1月14日16時54分発行